

令和7年度【見直し】力合西校区社協行動計画書

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み	行動計画
いつまでも安心して暮らせる地域づくり 赤ちゃんから高齢者まで つながり広がる力合西	みんなでいきいき、支え合い、助け合うまちづくり	高齢者・障がい児・者に関する事	高齢者の孤立防止と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の孤立化が深刻である。 地域住民が他人に興味がない。(地域に関心がない) 高齢者の近所付き合いが希薄になっている。 個人情報保護の観点で実情が把握出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 閉じこもり傾向にある高齢者に対して、地域の各種団体と連携した支援 近隣住民の理解と協力。 日ごろから隣近所で声かけを行う 校区内の高齢者の実態把握と見守り 	<ul style="list-style-type: none"> 学習会/研修会の継続開催【認知症】⇒認知症サポーター養成研修/DVD試写会の開催/町内・校区内における認識の共有を図る
			認知症高齢者に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の高齢者の情報がなく支援の方法が分かりにくい 認知症の疑いがある高齢者の対応方法がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に対する正しい知識とその対応方法を学ぶ機会をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいサロンの継続実施⇒企画内容等の充実 新たな会員の増加に努める 出前講座を活用し会員以外との交流を深める 野外活動を加えコミュニケーションの場を広げる 敬老会やお楽しみ抽選会等の企画の実施
			高齢者の体力維持と健康問題	<ul style="list-style-type: none"> 身体の衰えに関する知識が少なく、偏見や間違った知識も多い。 コロナ禍で外出できなくなり、高齢者が不安になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力維持のための地域行事を開催する 高齢者が参加しやすい行事(グラウンドゴルフ大会)の実施。 	
			買い物難民と移動手段	<ul style="list-style-type: none"> バス停まで道が狭くて危険 免許証返納後の市内中心部への交通手段が不安。 毎日の買い物にも地域支援者が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 免許返納後の移動手段を検討する 配達サービス事業所との連携、情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの構築(実働部隊による組織の構築、編成)⇒地域課題に関して、各種団体の連携を図り問題を解決するネットワークづくり
			障がい児・者に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> 障がいを持たれた方の理解が進んでおらず、対応もわからない。 多様性を理解し、SOS(障がいの有無に関係なく)を伝える場所が必要。 障がい児・者の実態把握及びその支援方法がわかりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児・者の特徴を理解するための研修 障がい者が参加しやすい地域行事の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 【障がい】⇒障がい者サポーター養成講座/校区内の施設訪問/民生委員との情報交換【食生活改善】⇒健康診断と食生活に関する指導の学習会/災害時等想定調理法の勉強会
	ち地域づくりの宝	子ども・子育てに関する事	子どもの人権(いじめ、不登校、虐待、引きこもり)	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の子どもの人権に関する意識不足 いじめ問題が深刻になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの人権について学習会が必要。 学校やPTA、その他地域団体と連携した行事の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> オレンジリボン(児童虐待防止)運動の啓発
			子ども・子育て家庭の見守り	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の居場所がない。 公民館や公園が少なく、特に子どもが安心してボール遊びができるような場所がない 昔のように子どもに注意も出来ない。大人が見て見ぬふりをする。 子ども会に代わる地域活動や活動を運営できる人材の発掘が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーション、ラジオ体操、交通安全教室等一堂に集まる機会の創出 見守り活動を運営する人材の発掘と育成 各種団体と親睦交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り隊⇒交通安全指導、旗振り、挨拶運動の継続実施 構成員の高齢化や後継者等の課題に取り組む
			子ども・子育ての孤立と貧困問題	<ul style="list-style-type: none"> 親の経済的状況が厳しく地域も財政的に厳しい。 共働き夫婦が多いが、保育園に入園できない子どもがいる。 子どもを安心して預けられる環境(祖父母が遠方にいる等)がない。 子ども食堂を支援する団体が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者世代を活用した学習機会や遊び場等の居場所づくりの検討。 子育て世帯の把握と支援。 子ども食堂を支援する団体との連携 親子の交流の場の提供、相談する場の創設。 	<ul style="list-style-type: none"> 昔遊び伝承等を活用した世代間交流を行う⇒力合西児童の総合学習での協力体制 校区青少年育成協議会が主体だが、社協として全面協力に努める
	みんなの力で災害に強いまちづくり	災害に関する事	平常時における災害の備えと避難支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 近隣世帯の状況が分からず水害時等に支援出来ない。 災害時の要配慮者(外国人技能実習生等への対応含む)への対応が十分できていない 人口増加に伴い、避難体制が十分整っていない。 町内放送が聞き取りづらく、避難支援の情報が十分に行き届かない。 近接の校区との連携が十分ではない 	<ul style="list-style-type: none"> 防災対策を行うための人材活用を行う組織化を図る 他の地域と連携した避難所の情報共有を行う 町内放送が聞こえない原因を把握し、改善を図る 要配慮者がいる世帯の把握、近隣住民との情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> 要支援者対策⇒住民との意見交換、要支援者の個別対応の共有化 対象者との関わり方を事前確認し対応を図る
			防災に対する地域住民の意識付け	<ul style="list-style-type: none"> 災害時にどのように行動するか、家族内での情報共有が不十分。 災害の種類や規模による避難所の周知が徹底されていない。 水害時に備えた側溝等の掃除等が不十分だと感じている。 訓練をしないといざという時、現実には動けない。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害の種類、規模に対応した避難場所の周知徹底。 日常からの意識向上啓発活動や災害への備え(家庭内での食料備蓄等)を促す。 避難所運営を行う際の場合の役割やルールを作る。 校区全体の訓練の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 校区防災連絡会のあり方⇒社協構成委員は各避難所運営に関わっているが校区社協としての対応策の検討 あらゆる状況を想定してのシュミレーションを考える 社協としての協力体制の構築が必要
			災害時の避難支援	<ul style="list-style-type: none"> 避難所へ避難した時、避難物資の情報が不明確だったので、改善してほしい。 コロナ禍による指定避難所の徹底(定員の問題など) 熊本地震の教訓を活かした要配慮者への連絡、誘導などの支援体制確認が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> 要配慮者の情報共有が必要。 地域内の井戸水を供給できる事業所や家の情報把握 	
	安全で魅力あるまちづくり	暮らし・人とのつながり	環境と治安(ゴミステーション、騒音トラブル等)	<ul style="list-style-type: none"> LEDの街灯が以前に比べて増えたがまだ少ない。 公民館等の集まる場がない町内がある。 ペットの糞尿問題(多数飼っている所がいて排泄物を道路や庭に放置していく人が多い。) イベント開催をする場所が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題が見えるように交流会を企画する。 イベントなどを通じてコミュニケーションの日常化を図る環境作りを行う。 行政と連携し、空き家・空き地の実態把握。 行政と自治会で連携し、街灯のLED化を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 多世代交流イベントの開催⇒カ西フェス(PTA主催)、各町内夏祭りの継続実施 校区公民館主催の市民のつどい、町民体育祭、どんとや等の開催で交流の場を広げる。各種団体やイベント運営者同士のつながりを図る
空き家・空き地・ゴミ屋敷			<ul style="list-style-type: none"> 空き家、空き地問題、ゴミ屋敷への対応がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 飼い主へのマナーの周知徹底 		
地域役員の担い手不足			<ul style="list-style-type: none"> 地域役員の担い手不足と役員の高齢化 人口増加に比例し、住民の意見が多様化し、意見の集約が難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の要望や課題を反映した活動(自治会活動の「見える化」)を行う。 若い世代が参画しやすい雰囲気づくりを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の拡散⇒地域のホームページや活動状況の広報誌等を作成、回覧 社協としてイベントなどの開催状況や日時、募集状況等の案内を町民へアピールを行う 	
地域団体間における連携			<ul style="list-style-type: none"> 校区や地域に関する情報がわかりづらい。 新旧住民の交流の場(世代間交流含む)が少ない。 各種団体の情報の発信が少ないように感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種教養、健康講座や子供の高齢者などを交えたふれあいの場を設ける。 各種団体の活動が見えるような情報の発信を行う 		